



全消協ニュース

全国消防職員協議会発行／編集責任者 川北 研人／東京都千代田区六番町1 自治労会館／☎(03) 3263-0271
ホームページアドレス／<http://zensyokyo.jp/>

全消協第47回定期総会の開催

北海道函館市・函館市民会館で 4年ぶりとなる完全参集開催

2023年9月2日(土)、新型コロナウイルス感染症が5類感染症へ移行したことから、4年ぶりに対面で第47回定期総会を開催し、代議員数240名のうち214名の仲間が北海道・函館市民会館に参集した。



岸まさこ参議院議員があいさつ

●議長団選出
北海道ブロック滝川地区広域消防事務組合職員協議会から千葉孝也代議員、近畿ブロック交野市消防職員協議会から團健太郎代議員を議長に選出し、議事を進めた。

- 須藤洋典会長あいさつ
来賓あいさつ(以下、敬称略)
自治労本部 副中央執行委員長 木村ひとみ
北海道消防職員協議会会長 須藤 悟
自治労北海道本部書記長 山本 紀彦
衆議院議員 逢坂誠二
参議院議員 岸まさこ
北海道議会議長 高橋 亨
函館市副市長 田畑浩文
●新規加盟単協あいさつ
北海道ブロック北後志消防職員協議会会長 山崎 歩
●2023年度活動経過報告
田立理事務局長
●女性連絡会2023年度活動経過報告
吉永紗弓 女性連絡会代表
●ユース部2023年度活動経過報告
永楽勝人 ユース部代表
●2023年度会計決算報告
小野英一 副会長
●2023年度会計監査報告
高橋博美 会計監査
●2024-2025年度活動方針案
佐藤昭徳 副会長
●2024年度予算案
小野英一 副会長
●出席代議員数名からの質疑応答(事前含む)
●役員選挙委員会報告
早川翼 役員選挙委員会委員長
2024年度役員選挙報告を行う
い、2024-2025役員の出について、e投票システムにて代議員による信任を得て承認された。



新規加盟単協へ団結旗

会長あいさつ

全国消防職員協議会第47回定期総会において、会長に再任されました。須藤洋典です。
お忙しいところ、総会前懇親会および定期総会に全国各地から参加していただきました代議員・傍聴者の方々により感謝を申し上げます。また、各単協内で代議員のために勤務調整等のご助力をいただいた会員の方々にもお礼を申し上げます。



2020年3月から新型コロナウイルスの蔓延が始まり、我々の勤務環境は大きく変わりました。とくに救急隊の勤務環境については全国的に報道機関が取り上げるほど激変し、過重労働による事故などが頻発しました。大きく変わると書いて「大変」と読みます。この大変な状況を少しでも改善しようと、全消協だけでなく単協の皆さんも活動されてきたと思います。現場で消耗する隊員のため、消防サービスを低下させないため、またコロナ禍で不安な住民の期待に応えるために、現場の声を上層部に対して具申し、自身も普段の勤務で疲労困憊している厳しい状況の中、非番・週休を利用し職場改善にむけ努力されてきたと思います。努力の結果改善された職場も多くあったようですが、残念ながら上層部が協議会の申し入れを聞き入れず、現場職員に負担を押し付けたままの消防本部も散見されました。大変な状況を他人に押し付け、自分だけは変わりたくない、変われない人と書いて「変人」と読めます。

今回、久々の対面総会・懇親会を通じて全国の会員さんと意見交換し、多くのご意見も頂戴しました。本総会にて、多くの役員が交代し新たな執行部体制となりましたが、前例にとらわれず、皆さんからの意見に柔軟に対応して参る所存です。変わらない人達「変人の集り」と思われぬよう全消協活動に邁進しますので、皆さんからの叱咤激励並びに協力をお願いいたします。

最後になりますが、本総会の成功のために奔走してくださった、函館市消防職員協議会、逢坂誠二消防政策議員懇談会会長、会員の皆様にご感謝を申し上げます。

2023年9月

全国消防職員協議会会長 須藤 洋典

質疑応答

活動経過報告

質問1 四日市市消防職員協議会
横山 隆臣

2023年度労働条件等調査結果は、いつ、どのような方法で公表しているのか。また、取りまとめた結果を労働講座や研究会の内容に反映させたことだが、反映させることができたのか。労働条件等調査は、調査担当者の負担となるため、この調査が形骸化しているようであれば、なくす方向で検討いただきたい。

回答 田立理事務局長

労働条件等調査結果は研究会等で活用することはできているが、結果は公表していなかったため対応する。調査の取り扱いについては、今後の検討課題としたい。

質問2 四日市市消防職員協議会
事務局長 杉本 雄介

研究会について、総会資料15ページ⑦に「今後の全消協活動方針へ活かすための意見交換を行った」との記載がある。研究会は分科会において、各種課題を研究し、その結果を活動方針に盛り込むなどの目的があると認識しているが、どのような形で反映させているのか。

回答 佐藤昭徳副会長

活動方針に直接見える形で反映

させることは難しいが、意見を吸い上げる形としている。

質問3-1

福岡県消協事務局長 吉田 真也
(直方市消防職員協議会)

新型コロナウイルスによる消協活動の停滞化について、どう考えているのか。

回答 佐藤昭徳副会長

新型コロナウイルスを引き金に、単協・県消協活動、参加ができず会員離れが進んでいるという声は、全消協にも届いている。全消協ではウェブ環境構築のほか、各ブロックへの特別支援など、単協活性化として予算化しており、本総会もウェブにて配信している。また、各種講座や基調講演等を配信するとともに、特別支援金を用いて、各ブロック間が主体となり、交流を含めた活動が行われた。今後もウェブを活用した活動は継続できると考えている。

質問3-2

研究会や総会などブロック参加枠がある事業に対して、県会長や事務局長の参加を認めることが可能か。

回答 佐藤昭徳副会長

現状、参加者枠についてはブロック割となっているため、各ブロック

内での協議をお願いしたい。参加者の増員については、予算との兼ね合いがあるため、幹事会で協議する。

質問3-3

単協代表者会議の中で提起された消防職員委員会の活用の進捗状況について伺いたい。

回答 佐藤昭徳副会長

突然の提起では各単協が対応困難であると判断し、今後可能であれば統一意見を出せるようにしていく。

質問4

四日市市消防職員協議会
特別常任委員 塩海 誠

全消協ニュースに厚労省との意見交換についての記事はあるが、意見交換の内容を伺いたい。なお、第1回幹事会の議事録に、今後、意見交換の内容を出すことだったが、出されていないか。

回答 田立理事務局長

2022年の9月に実施した厚労省との意見交換は、未記載であったため、公表する。

質問5

高知市消防職員協議会
事務局長 長田 哲宣

第5回ユースStepUpセミナーにおいて、「新たな試みとしての他の産別との連携を深めていく」とあるが、参加した会員からも刺激を受けたと聞いているので、今後も継続していただきたい。また、韓国の消防職員の状況について、わかる範囲で教えていただきたい。

回答 佐藤昭徳副会長

PSI-JCの活動は国内の活動が中心であり、全消協活動に寄与している。韓国では消防職員に労働基本権が付与され、組合への加

2024年度役員体制

会長 須藤 洋典

高松市消防職員協議会 (香川県)
副会長 佐藤 昭徳
延岡市消防職員協議会 (宮崎県)
副会長 長谷部 寛
交野市消防職員協議会 (大阪府)
事務局長 川北 研人
四日市市消防職員協議会 (三重県)
事務局長次長 岡大祐
佐伯市消防職員協議会 (大分県)
事務局長次長 長谷川 亜純
函館市消防職員協議会 (北海道)
北海道ブロック幹事 佐々木 嘉孝
音威子府村消防職員協議会 (北海道)

東北ブロック幹事 樺澤 隼人
新潟市消防職員協議会 (新潟県)
関東甲ブロック幹事 石井 英樹
長生郡市広域消防職員協議会 (千葉県)

北信ブロック幹事 清水 大輔
上田消防職員協議会 (長野県)
東海ブロック幹事 鹿島 真弘
鳥羽市消防職員協議会 (三重県)
近畿ブロック幹事 森崎 雅己
奈良県広域消防職員協議会 (奈良県)

中国ブロック幹事 小林 俊明
尾道消防職員協議会 (広島県)
四国ブロック幹事 永楽 勝久
鳴門市消防職員協議会 (徳島県)
九州ブロック幹事 北川 彰平
杵藤地区消防職員協議会 (佐賀県)
女性連絡会代表 朽木 麻里奈
西いぶり消防職員協議会 (北海道)

ユース部代表 鈴木 直人
湯沢雄勝消防職員協議会 (秋田県)

役員紹介



会長 須藤 洋典



副会長 佐藤 昭徳



副会長 長谷部 寛

全消協は、新たな役員体制でスタートした。引き続き会員の声を聴き、さまざまな課題解決に取り組んでいく。
問題の共有と課題の抽出。そして抽出した現場の課題を、国などに申し入れし、課題解決にむけた取り組みを進める。引き続き活発な活動を展開し、組織を強化するとともに、これまでに以上に会員の皆様に寄り添ったサポート並びに住民サービスの向上に寄与する活動に取り組んでいく。
何か困りごとがあれば一人で抱えず、気軽に相談し、うまく組織を活用していこう。ともに頑張ろう！

入人数も増加している。韓国とはP
SIの加盟組合と連携して意見交
換を進めている。今後も交流を継
続し、団結権について前進できるよ
う進めていきたい。

活動方針・ 予算案

質問1 苫小牧市消防職員協議会
平谷 征也

今後の予備費の活用方法につい
て教えていただきたい。また、会費
の減額等は考えているか。

回答 小野 英一 副会長

定期総会後に会員数調査の集約・
精査を経て会費請求しており、会
費が振り込まれるのは概ね年末頃
一方、全消協の会計の締めは6月末
日となっており、年末までには労働
講座などもあるため、この間の活動
費が4000万円程度必要となる。
活動を活性化させるためにも、会
費の減額は考えていない。

質問2 高知市消防職員協議会
事務局 長田 哲宣

各消防本部で女性職員の職域拡
大・活躍推進が進められている。職
場における女性職員への期待ととも
に負担も増えており、妊娠・出産・
育児・介護や長期休暇・休暇後の
復職などライフステージに応じた負
担も女性職員が多く担う現状の中
それに加えて消協活動からの大き
な期待を、わずか3.4%しかないな
い女性職員に背負わせることに疑問
を感じている。
「ジェンダー平等」や「あらゆる

消防職員が働きやすい職場環境
の課題は、女性だけの集まりで解
決できることではなく、むしろ男性
が積極的に関わって解決しなければ
ならない。歴代の女性連絡会活動
は素晴らしいものであるが、さまざ
まな工夫で時世に合わせた柔軟な
活動が継続されることに期待する。
5名しかない女性連絡会役員が
その責任感から無理を重ねることを
危惧している。本来は「働きやすい
職場環境」をめざす女性連絡会の
活動が、女性会員の負担とならな
いよう、全消協役員だけでなく各
単協からも支援をいただきたい。

回答 佐藤 昭徳 副会長

女性連絡会の活動は、女性会員
が負担と感じず、明るくハツラツと
した活動ができることが一番重要。
今後、全消協女性連絡会には担当
事務局を配置する予定である。

質問3 三重県消防職員協議会
会長 小河 誠寛 (四日市市
消協特別常任委員)

2021年7月に韓国の消防職
員に団結権が付与された経緯、労
組の組織化、労組の活動、社会の
反応などについて、全消協が今後の
活動に活かしていくためには、この
タイミングで、しっかりと交流をはか
り、調査する必要があるのではない
か。ハラスメントや定年引き上げな
どの課題が多くある中、日本国内
だけの考え方だけでなく、他国
の課題解決に向けた取り組みなど
を積極的に研究する必要があるが、
考えを伺いたい。

回答 佐藤 昭徳 副会長

2024年度は、連合で国際シン

ポジウムの開催が予定されており、
韓国の消防職員が来日する。そこ
でも交流を深めながら、今後の活
動の展開につなげたい。

質問4-1 日向市消防職員協議会
会長 海野 道明

女性連絡会のサポートをしっか
りお願いしたい。

回答 佐藤 昭徳 副会長

経過報告でも申し上げた通り、
負担はあってもそれ以上に楽しいと
感じられる会をめざしていく。

質問4-2

宮崎・都城の脱会問題について現
状はどうなっているのか。

回答 佐藤 昭徳 副会長

都城市消防職員協議会には9月
23日(土)にオルグを計画してお
り会員向け全消協の活動紹介を行
う予定である(2回目)。宮崎市消
防職員協議会からは、現在の全消
協活動についてのオルグを要望され
ており、現在、日程を調整中である。

質問5 熊本県消防職員協議会
事務局 長野 村 政治
(宇城消防職員協議会)

各予算の執行残の流用など使途
の記載の工夫等、予算書の書き方
を検討いただきたい。

回答 小野 英一 副会長

提案の該当箇所はホームページ
のリニューアルなど、予算計上して
いなかったものなどが該当となる。
財政執行基準の中で支出項目にな
いものについては予備費から支出し
ている。



女性連絡会代表
朽木 麻里奈



中国ブロック幹事
小林 俊明



北信ブロック幹事
清水 大輔



北海道ブロック幹事
佐々木 嘉孝



事務局長
川北 研人



ユース部代表
鈴木 直人



四国ブロック幹事
永楽 勝久



東海ブロック幹事
鹿島田 真弘



東北ブロック幹事
樺澤 隼人



事務局次長
岡 大祐



九州ブロック幹事
北川 彰平



近畿ブロック幹事
森崎 雅己



関東甲ブロック幹事
石井 英樹



事務局次長
長谷川 亜純

2023年度

第51回研究集会の開催

2023年6月9日(金)、10日(土)の2日間、広島県広島市・広島国際会議場で開催し、224人が参加した。

冒頭、須藤洋典会長が主催者を代表し、「研究集会の意義は消防行政・職場環境に対する問題に気づき、その改善にむけてどのように取り組んでいくのかを共有する場である」とあいさつした。

その後、石角仁土広島県消防職員協議会会長、青木雄次自治労本部総合組織局長、山崎幸治自治労広島県本部執行委員長が



元広島市消防局・原田俊治さんの講演

「平成30年7月豪雨災害を振り返って」と題する講演を行った。緊急消防援助隊の要請から引き揚げまで、重機作業等による建物等の破損に伴う応急公用負担について実働と根拠を比較しながら、対応について教示された。また、受援体制の確保の経験を中心に宿営地の確保、他部局との連携、避難指示エリア内の住民対応について課題を

挙げられ、文書ありきではなく、現場では柔軟に判断する対応力が求められると説明した。続いて、竹内洋司消防総合研究委員会副委員長が「定年引き上げに伴う総合研究委員会活動経過報告」働きがいのある職場環境の構築にむけて」と題する報告を行った。定年引き上げに伴う総合研究委員会の設置背景と目的、2023年2月20日～同年3月14日までの期間で実施された定年引き上げのアンケート調査結果を報告し、消防職場の定年引き上げに関する現状と将来あるべき姿について提起した。

その後、参加者全員で広島平和記念公園に赴き、核兵器廃絶と平和を願い、献花を行った。午後からは参加者が6つの分科会(①組織強化・拡大、②賃金・労働条件、③労働安全衛生、④消防業務行政、⑤ジェンダー平等⑥定年引き上げ)に分かれ、全消協幹事が各分科会の進行を務め、知見を深めた。2日目は各分科会において議論を深めた。

①組織強化・拡大は、今回の学習目標を「組織率の向上と強



広島平和都市記念碑前での集合写真

それぞれあいさつを行った。本部提起「消防職員の問題と課題の解決にむけて」と題し、佐藤昭徳副会長は、「研究集会を契機とし、個人で解決できない問題は単協で、単協で解決できない場合はブロックで、ブロックで解決できない場合は全国で、全国で解決できない場合は協力団体の力を借り、誇りをもって仕事に臨める職場環境の構築をめざそう」と提起した。

次に、元広島市消防局消防職員の前田俊治さんが「緊急消防援助隊の受援・他機関との連携」

「平成30年7月豪雨災害を振り返って」と題する講演を行った。緊急消防援助隊の要請から引き揚げまで、重機作業等による建物等の破損に伴う応急公用負担について実働と根拠を比較しながら、対応について教示された。また、受援体制の確保の経験を中心に宿営地の確保、他部局との連携、避難指示エリア内の住民対応について課題を

挙げられ、文書ありきではなく、現場では柔軟に判断する対応力が求められると説明した。続いて、竹内洋司消防総合研究委員会副委員長が「定年引き上げに伴う総合研究委員会活動経過報告」働きがいのある職場環境の構築にむけて」と題する報告を行った。定年引き上げに伴う総合研究委員会の設置背景と目的、2023年2月20日～同年3月14日までの期間で実施された定年引き上げのアンケート調査結果を報告し、消防職場の定年引き上げに関する現状と将来あるべき姿について提起した。

その後、参加者全員で広島平和記念公園に赴き、核兵器廃絶と平和を願い、献花を行った。午後からは参加者が6つの分科会(①組織強化・拡大、②賃金・労働条件、③労働安全衛生、④消防業務行政、⑤ジェンダー平等⑥定年引き上げ)に分かれ、全消協幹事が各分科会の進行を務め、知見を深めた。2日目は各分科会において議論を深めた。



分科会の様子

い組織の「継続」とし、自治労本部の林組織強化拡大局長と北川組織拡大オールの2人が「未加入者に対するオルグ活動について」「組織化に必要なコミュニケーション力」について講義を行った。2日目は各班にて初日に学習した内容を参考に「模擬オルグ」を行った。今回の模擬オルグは「設定場面」や「進め方」「未加入者からの質問」「質問に対する回答のポイント」などをあらかじめ提示していたことから、沈黙の時間も少なく、提示内容だけではない単協が抱える独自の課題も共有でき、有意義な模擬オルグとなった。

②賃金・労働条件は、自治労本部の森本正宏総合労働局長が講義を行った。続いて、スライドを使用し無賃金拘束時間などを説明しながらグループワークを行い、各単協の問題点を抽出した。多岐にわたる内容について全員で知識を深め、参加者からはさまざまな課題や問題が出された。

③労働安全衛生と④消防業務行政は、近年の新型コロナウイルス

の課題となっているテーマについてアンケート調査の報告を行った。長く働き続けられる職場へつなげられるよう、今後も協議を深めたい。

また、参加者はグループごとに各消防本部の課題や問題点をあげ、各単協の取り組みなどを共有し、改善策を話し合った。

本研修会は、新型コロナウイルス感染症が感染症分類第5類になったことから、3年半ぶりの完全参加となった。今後も横の繋がりを大切にし、各研修会を通じ、組織強化に努めたい。

今年度、総合研究委員会が立ち上げられているため、次ページにて取り上げる。

定年引き上げに伴う 総合研究委員会について

2023年度から開始された定年引き上げに伴うシンクタンクの設定から過去4回の委員会活動を実施し、委員会では各種問題点を多岐にわたる方向から抽出、全消協や総務省消防庁へむけて問題提起するために議論を重ねてきた。今回の研究集会では、委員会活動中に実施した各単協および個人に対するアンケート結果を全体集会で報告した。定年引き上げに対する現時点での単協ならびに個人の思いを反映させた報告であった。また、アンケートを通じてこれからの消協活動、組織強化への課題も浮き彫りになったのではないかと感じた。

分科会でのグループワークは、定年引き上げ分科会の目的として、①定年引き上げ制度を理解し、現状と諸課題に気づくこと、②グループワークを通じて、他所属との違いを知り、諸課題の解決に向けてのこと、の2つを掲げグループワークに導入した。

グループワークに入った直後から熱量の高い議論が飛び交い、休憩を取らない方もいるほどの盛り上がりを見せた会であったのは、この問題に対する優先度の高さを理解し、起因する課題を共有することで、世代を超えた未来の自分を見据える「気づき」の場となったのではないかと思う。

コロナ禍で顔を合わせた議論ができなかった2年間を振り返り、参集して実施された本研究会の重要性をあらためて実感できた。一体感が団結力を生み、声を出すきっかけになるのだ。

全消協定年引き上げに伴う総合研究委員会委員 松岡あゆお

2023年度 明治大学寄付講座を実施

6月1日(木)、東京・駿河台キャンパスにて、自治労が明治大学で開講している寄付講座「地方自治体の仕事と労働組合」(履修登録約190人)のうちの1講座として、長谷川亜純北海道ブロック幹事が「消防職員の活動と地方自治体の責務」と題する講演を行った。

本講座は、公共サービスを担っている地方自治体や自治体関連の事業者の職員、業務委託先の民間労働者を講師に、公共サービスをを取り巻く諸問題についての解決策や、地方自治体の職員組合や公共サービス関連の労働組合の役割について考え、学ぶことを目的としている。

長谷川幹事は、「消防職員は地方自治体の職員として、市民の安心・安全を守るため、24時間勤務で働いている。火災・救急・救助の現場活動はもちろん、近年大規模・複雑多様化している地震や風水害等の自然災害では、必ずしも各自自治体内での活動に留まらず、緊急消防援助隊として、消防が丸となって対応している。現場活動だけでなく訓練も危険



長谷川亜純幹事による講演

と隣合わせであり、装備や設備が十分でなければ職員の安全が脅かされることになる。また、政府が進めている女性活躍推進により、10年前は約2%であった女性消防吏員は3.8%と増加しているが、男女がともに働きやすい消防職場づくりまでは道半ばである。より働きやすい職場環境の構築のためには、現場の声を行政に反映させる必要があるが、日本の消防職員には労働組合権がすべて認められていない」と説明し、その現状を打開

するために結成した全国消防職員協議会の役割と、消防職の特性から労働組合の必要性を考察するとともに、業務を通じて感じた命の大切さを伝えた。

受講した学生からは、「自分の知っていた消防の仕事は、ごく一部だと理解できた」「全国消防職員協議会の必要性を理解でき、今すぐ消防職員へ団結権を与えらるべきだと思った」「命に値段はつけられない尊いものだというところに命の重みを感じた」といった感想が寄せられた。

第8回女性交流会

2023年5月18日(木)、第8回女性交流会を開催し、全国から27人(女性21人・男性6人)が参加した。

冒頭、川北事務局次長は「女性交流会では学習も重要であるが、とくに交流を深めることで、自分の職場環境について考えるきっかけとなる。今回の女性交流会を楽しんでほしい」とあいさつした。

次に、松岡澄江株式会社キャリアアポルト代表取締役が「女性の健康課題について〜生理休暇・キャリア〜」と題する講演を行った。働くことと生活をするこの両方を充実させるためには、ヘルスリテラシーが重要であるとの話であった。ヘルス



リテラシーとは、健康や医療に関する正しい情報を入力し理解して活用する能力という意味である。近年ではさまざまな情報にアクセスしやすくなっているが、その情報が正しい情報であるか、自分自身が必要とする情報であるかとは異なり、情報を選択していくことが重要であると感ずる。とくに女性の健康・ホルモン変化の正しい情報は日頃入手しておくことで、自分自身の生活や体をはじめ、変化に気づくことができるかもしれない。目をむけることが少ない「健康」というテーマであったが、日々体は変化し続けており、健康について考える良いきっかけとなった。また、講演ではZoom投票機能を活用し、参加者の意識について問いかけ、その場でグラフとして集計され、視覚的に参加者の考え方を感ずることができた。聴講のみならず、考え振り返る一呼吸となり、有意義な講義時間であった。

最後に、女性連絡会から現状の課題や今までのアンケート結果についての発表を行った。継続的な課題は多いが、アンケートや全消協行事を重ねていくことで課題を細分化し、解像度が上がっていると感ずる。会員皆さんの声を要請に反映し、相談いただいた際には一助となるようなデータ活用ができれば幸いである。今回の女性交流会開催後のアンケートでは、「開催方法の希望はあ



るか」の問い(複数回答可)に対し、オンライン会議を希望する方が7割、参加希望が2割という結果であった。今回のオンライン会議参加者からは「有意義なものであった」という意見もあつたことから、今後も柔軟に開催方法を考えたい。女性交流会に参加した感想として、「性別を問わずみんなが働きやすい職場となるように今後も頑張りたい」「情報共有をしながら環境の変化、以上に気づけるようにしておきたい」「女性の健康課題という点で生理休暇をテーマとして取り上げていたが、更年期など今後直面していく課題についても聞くことができたので、今回の講演を参考に協議会で話し合いができればいいと感じた」などの意見があつた。女性連絡会幹事も女性交流会は学びの場、交流の場であると再確認し、今後はどのようなアプローチが必要か考えさせられた機会となった。

今回の講演については、全消協会員サイトにて動画視聴が可能である。松岡様のご厚意で広く学習に活用してほしいとのことであつたため、ぜひ多くの方に視聴していただきたい。

半鐘の足音

中国ブロック幹事として6年間、末組織消防職場の職員をはじめ、全国の消防職員、自治労関係者の方々と数えきれないほど多くの出会いがあつた。多くの方々から支えられ、刺激を受け、私の人生の中において、とても充実した時間を過ごすことができた。幹事になりたての頃は、右も左もわからず戸惑うことがかりで苦い経験も幾度としてきた。その都度、ブロックの仲間にも助けられ、支えてもらったことは感謝してもしきれない。私が消防士を辞めたのは2005年である。この時すでに私の所属には消防職員協議会があり、職員の総意として意見を出しやすい環境が構築されており、当時はそれが当たり前のことであると思つてた。

しかし、全国の多くの仲間と出会い、いろいろな苦しみや悩みを抱えている仲間が大勢いることを知り、当時、私が当たり前だと思つていたことは、当たり前ではなかつたのだと感ずり、改めて消防職員協議会の重要性・必要性を強く認識するきっかけとなった。

だからこそ私は、消防職員協議会活動に尽力された諸先輩方の思いを大切に、次代の活動を切り拓く先導者として、仲間とともに力を発揮していきたいと思つた。

ここ数年、新型コロナウイルス感染症が感染拡大したことがきっかけで、さまざまな制約が生じることとなった。そのため、思うように活動が展開できていなかったのかもしれないが、過去を振り返って悲観することなく、活動の中で基本となる人と人との繋がりを、改めて再構築するための良い機会と捉え、「できる活動」を常に模索し、チャレンジしていきたいと思つた。

最後に、私のために3期6年ご尽力いただいたすべての方々へ厚くお礼申し上げます。今後とも、ともにかんばりましょう！

西尾基貴(中国ブロック幹事、尾道消防職員協議会)

ホームページが新しくなりました!

Facebook・Twitter・Instagramも開設しています!



今後の予定

2023年12月1日(金)・2日(土)
全消協第54回労働講座
(東京都・自治労会館)